

紀要22号の刊行にあたって

本研究センターでは、「広く学際的視点にたった人間関係研究」を研究目的として掲げています。研究センターという名称ですが、多数の公開講座を開催するなど、研究成果の社会還元も重視して活動して参りました。

新型コロナという脅威の中、本センターでは感染拡大防止対策を迫られました。今年度は、一部の講座を対面で再開する一方で、オンライン方式での講座も実施しています。オンライン講座は、遠方から受講される方々にとっては、時間のロスや物理的な移動の必要がないなど、メリットが多い方法だと考えられます。ただ、人間関係研究という観点からは、本当にオンライン方式でのかわりだけで、人間関係の本質に迫ることができるのか、など議論があります。これは、奥深いテーマであり、まだ評価が定まらない段階だと言えるでしょう。

本紀要は例年、年度初めに特集テーマを決めて、原稿を募集する形を取っています。今年も「ICTと人間関係」をテーマにしました。ただ、数多くのご投稿を頂くには至りませんでした。オンラインでのコミュニケーションが広がる一方で、この変化が人間関係にどのような影響を及ぼすのか、具体的にはまだ良くわかっていません。仮想空間で生まれる人間関係は、決して良い面ばかりではないと考えられます。負の側面への対策を、やや長期的な展望をもって、慎重に考えていく必要があります。

2022年1月、元センター長の津村俊充さんをご逝去されました。津村俊充さんは、2004年4月から2014年3月までの10年間、センター長として本センターの活動を推進し、多大な貢献をされました。そこで、本号では津村さんを偲んで、センター員からのお別れの言葉を掲載いたします。

また、本年度第1回の公開講演会では、山浦一保先生（立命館大学スポーツ健康科学部教授）に「組織のダークサイド」をテーマにお話し頂きました。その概要を掲載いたしました。過去のご講演では、逐語録を掲載してきましたが、今回は山浦先生からのご希望もあって、抄録のみとしております。

今年度から、本紀要の発行時期は年度末の多忙な時期を避けて、秋に変更いたしました。今後も引き続きご愛読頂きますよう、お願いします。

南山大学人間関係研究センター長 宇田 光